

**WEEKLY SIGNAL**

2020年3月6日(金) 1515号

**上田八木短資株式会社**

**来週の市場とレート予想**

	3/9(月)	3/10(火)	3/11(水)	3/12(木)	3/13(金)
無担保O/N			△ 0.087% ~ 0.001%		
銀行券	+ 1,000	+ 1,000	ト ン	ト ン	ト ン
財政他	+ 1,900	△ 2,000	△ 20,000	△ 1,000	△ 6,000
資金供給	+ 2,900	△ 1,000	△ 20,000	△ 1,000	△ 6,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M)	国庫短期証券発行・償還(6M)	国債発行(5年)	源泉税揚げ	国債発行(20年)
オペ期日	CP買入 △ 300 国債補充供給 + 100				
オペスタート	国債買入 + 3,600 CP買入 + 4,000 ETF買入 + 600				
(日本)	GDP(改定値) 経常収支 貿易収支	工作機械受注(2月)		対外・対内証券投資(3月1日-17日) 国内企業物価指数(2月) 営業毎旬報告(3月10日現在)	
(海外)	独 鉱工業生産(1月)	ユーロ圏 GDP(10-12月期)	米 CPI(2月) 米 財政収支(2月)	ユーロ圏 ECB政策金利を発表 ユーロ圏 ラガルド総裁の記者会見 ユーロ圏 鉱工業生産(1月) 米 PPI	米 シカン大学消費者マインド指数(3月)

**【インターバンク市場】**

無担保タム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.010 ~ 0.020
SPOT 2M	△0.010 ~ 0.040
SPOT 3M	△0.010 ~ 0.070
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.130

**<インターバンク>**

日銀当座預金は週初、397兆8,700億円から始まった。その後、同残高は4日の税・保険揚げを主因に389兆円台まで減少し、週末となる6日には391兆300億円となった。無担保コールON物の加重平均金利は週初△0.023%から始まったものの、足許の資金放出ニーズの増加に伴い、調達意欲が徐々に弱まったことで低下基調となり、週末となる7日には△0.052%となった。タム物は1~2W物を中心に、主に△0.01%~0.000%台での取引がみられた。FRBは3日、G7による緊急の財務相・中央銀行総裁会議の直後に臨時的FOMCを開催し、政策金利の誘導目標を年1.50~1.75%から年1.00~1.25%に引き下げた。来週は国内では、10-12月期のGDP改定値(9日)、海外では、ユーロ圏GDP(10日)、ECBの政策金利発表・ラガルド総裁会見(12日)などが予定されている。

**【オープン市場】**

CP3M(a-1+)	△0.001 ~ 0.000
TDB 3M	△0.350 ~ △0.300
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

**<CP>**

今週の入札発行総額は約8,900億円で、週間償還額(約4,500億円)を上回った。発行市場は、5・10日発行と連日大型案件が実施されたことが重なり、活況となった。発行残高は、先週末の22兆7,742億円から5日時点では23兆9,250億円程度となり、リーマンショック前の2007年12月27日の23兆3,041億円を大きく上回り、過去最高となっている。発行レートは、期内物・期越え物を問わず、マイナスレートでの発行は減少し0%から浅いプラスレートでの出会い中心となった。4日に、CP等買入れオペが予定より500億円増額され、4,000億円でオファーされた。結果は、按分レート△0.001%・平均落札レート0.002%と前回(按分△0.001%・平均落札0.000%)から、平均落札レートが上昇した。ディーラーの売却ニーズは高く、応札額は1兆1千億円を超えた。来週の週間償還額は約1兆100億円となっている。発行市場は、5・10日発行もあり発行超が予想される。発行レートは、期越え物で浅いマイナスレートがあるものの、今週同様0%からプラス圏内での出会いが多くなると思われる。

**<TDB>**

66日入札の3M892回債(6月8日償還)の入札結果は、最高落札利回り△0.2505%(前回債△0.1343%)、平均落札利回り△0.2697%(同△0.1391%)となり、入札後は△0.320%~△0.310%のレンジで出会いが見られた。そのほかセカンダリーでは3M891回債(6月1日償還)が5日まで△0.200%、週末6日の3M入札前には△0.210%~△0.201%のレンジで取引され、入札後は少額で△0.310%まで出会いが見られた。また1Y889回債(2月22日償還)は△0.285%~△0.275%のレンジで取引された。来週は9日に6M、13日に3Mの入札が予定されている。

**<レポ>**

今週の足許GC取引は、週初△0.08%~△0.07%の出会い、4日受渡し以降のレートは大きく低下し△0.15%近辺で取引された。週を通して、前場から後場にかけては堅調な取引が中心であったが、引けにかけては△0.10%近辺までレートが上昇する展開であった。日銀は、2016年以來となる買現先オペを、2日に5,000億円、3日に5,000億円、それぞれオファーした。SC取引は、30年65回債がO/N物で△0.3%を超える出会いが見られた。他2年407~410回債、5年141~142回債、10年336~357回債、30年64回債、40年12回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。